

# 第1章 新クイックプランの概要

# 第1章 新クイックプランの概要

## 1 基本方針

合流式下水道の改善事業は、河川や海に放流される総汚濁負荷量（p.10の※参照）を分流式下水道と同程度まで削減することを、中長期的な対策目標として、しゃ集管きよの増強と貯留池の整備を進めてきた。しかし、これらの対策の効果は大きいものの、長い年月と多大な費用が必要となるため、お客さまが早期に効果を実感できる対策が求められていた。

そこで、対策や対策地区を重点化して、短期間に事業効果を実感できるクイックプランを平成13年3月に策定した。このクイックプランに基づいて、管きよに入った油が固まって流出したオイルボール（白色固形物、p.13の※参照）やごみの流出抑制などの対策を実施してきており、お台場へのオイルボールの漂着日数減少などの効果があらわれている。

新クイックプランでは、オイルボールの原因となる油やごみなどを「下水道に入れない」「下水道にためない」「下水道から出さない」ことを基本方針として、これまでのクイックプランによる事業効果や費用を精査したうえで、重点的に対策を実施するモデル地区の設定や部分分流の導入（p.31参照）などの新たな取組みを加え、対策を充実した。

計画期間は、これまでのクイックプランの平成16年度分の事業を取り込み、平成20年度までの5カ年とする。

図1-1 クイックプランの計画期間

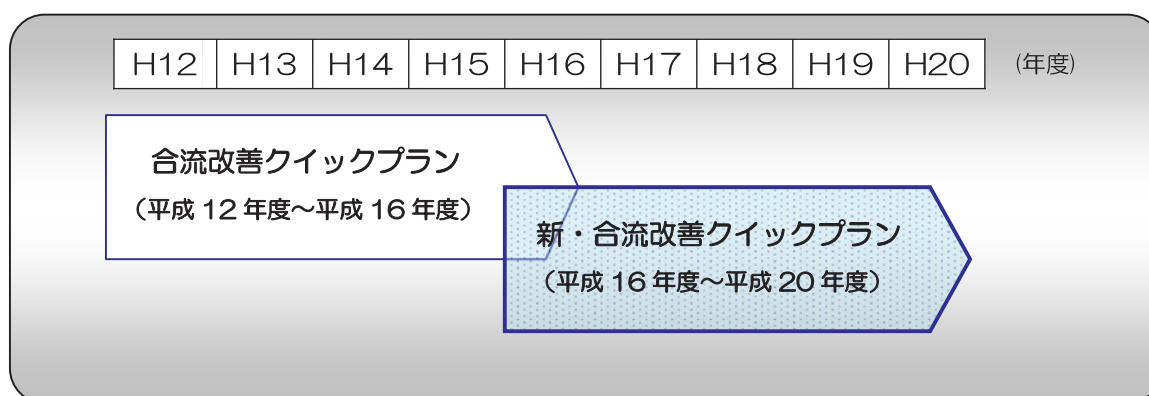
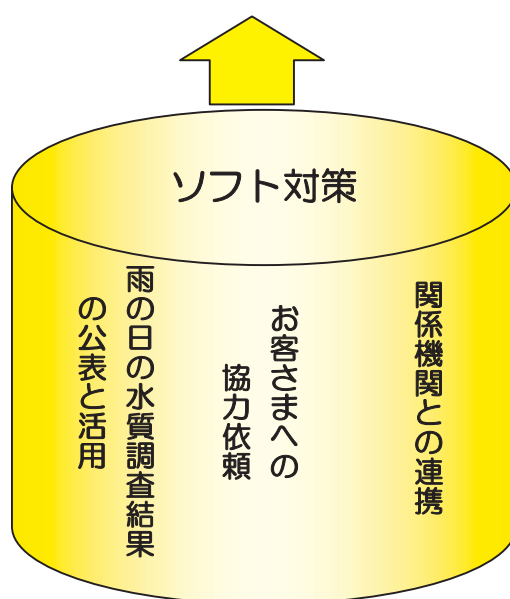
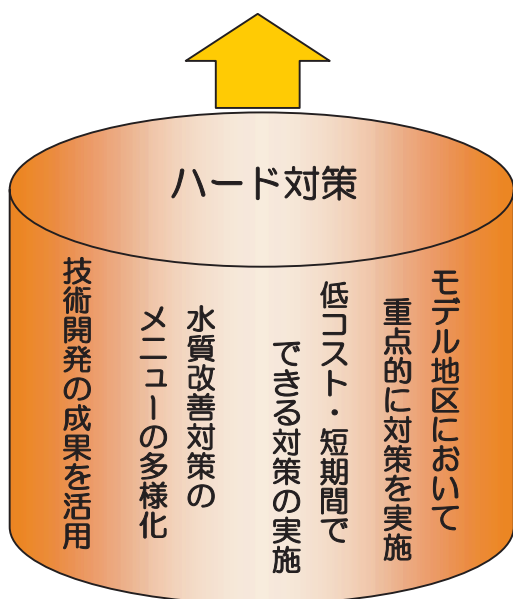
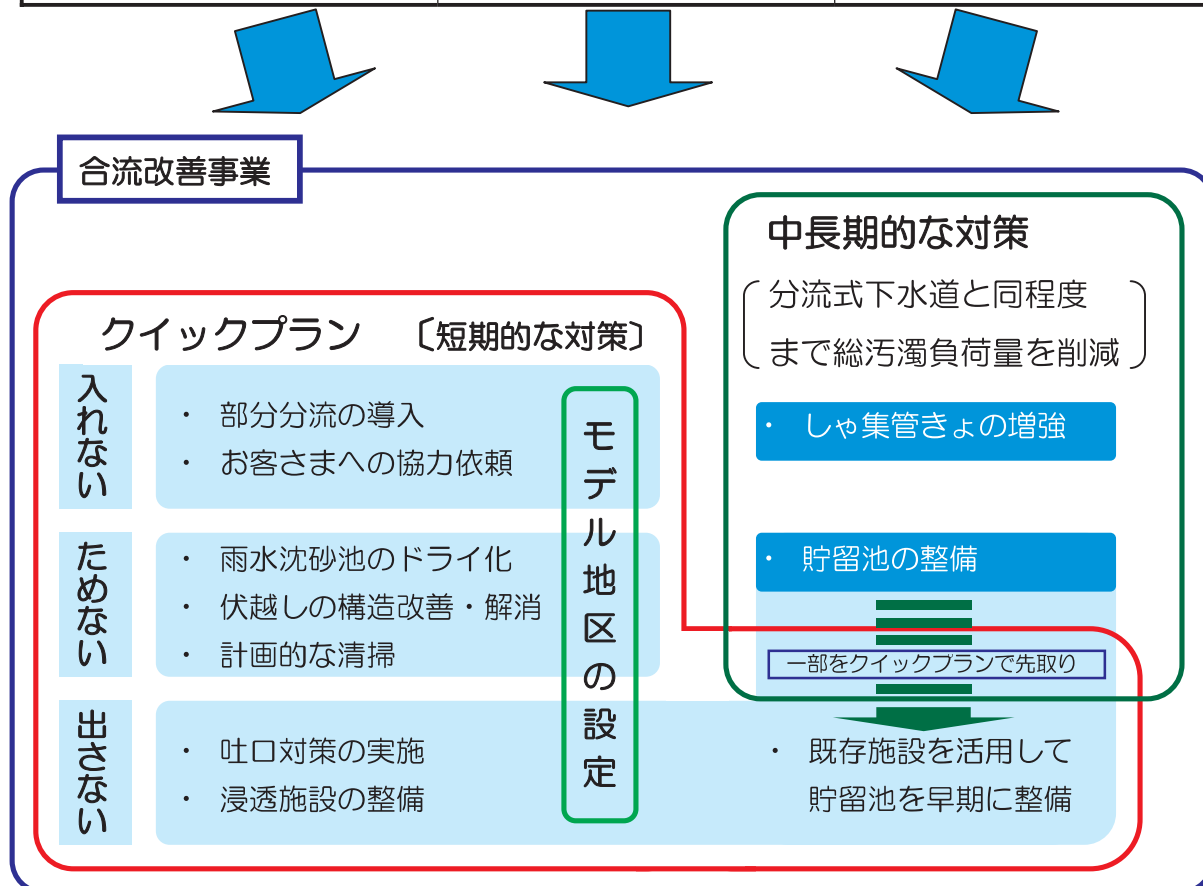


図1-2 「3つの視点」と新・合流改善クイックプラン

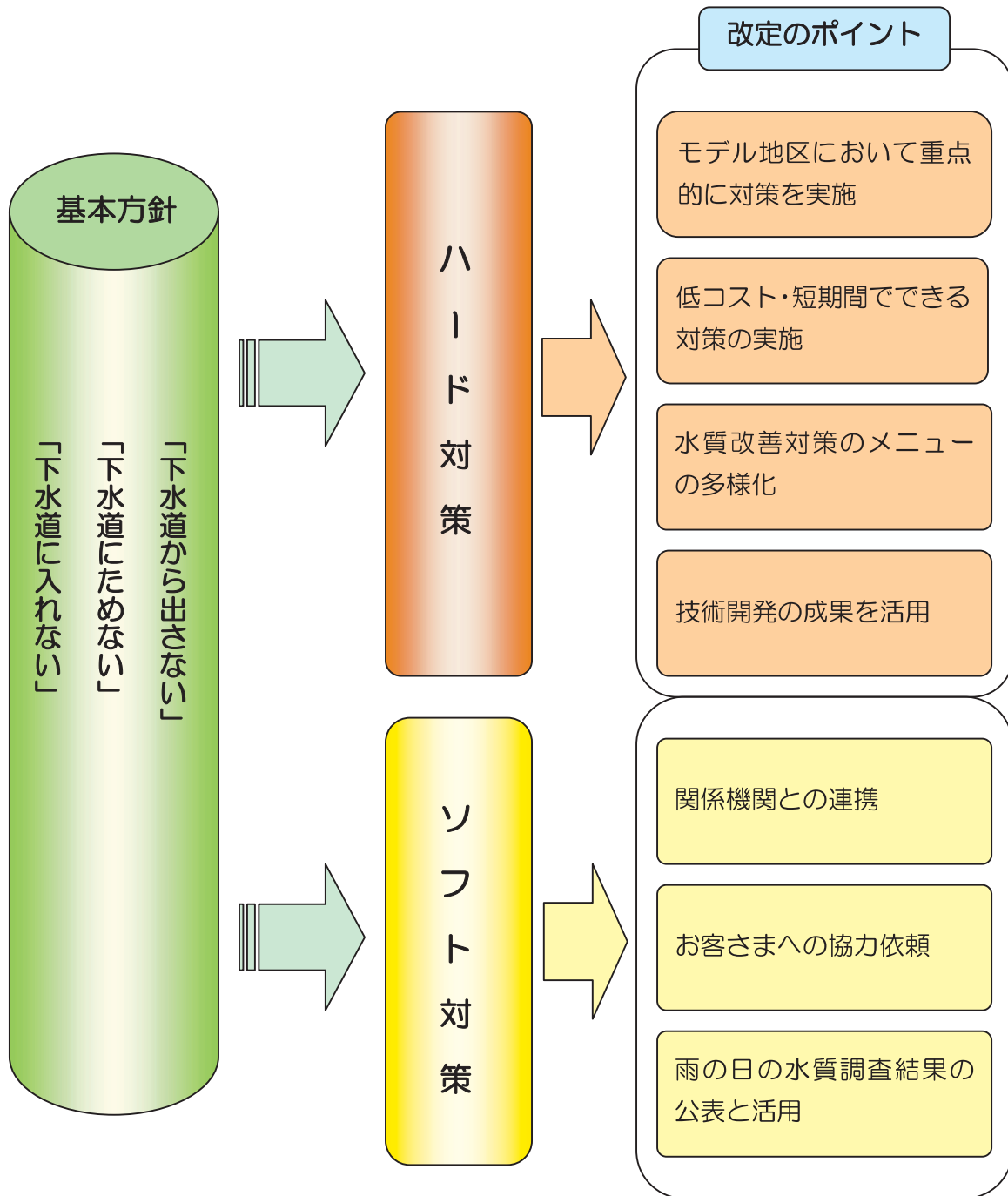
お客様の視点	環境の視点	経営の視点
○ 水質改善の要望の強い地区において重点的に対策を実施	○ 部分分流の導入や伏越しの構造改善・解消などの放流水質の改善対策を実施	○ 既存施設を活用した貯留池の整備などの低コスト・短期間でできる対策を実施



## 2 改定のポイント

これまでのクイックプランによる事業効果やお客さまなどからの水質改善の要望を踏まえ、新クイックプランでは以下のポイントに基づき対策の充実を図る。

図1-3 改定のポイント



## (1) ハード対策の内容

### ① モデル地区において重点的に対策を実施

水辺に親しむ環境が整備されているが、雨天時にオイルボールやごみの流出の問題が発生しており、お客さまの水質改善要望の強い地区を、重点的に対策を実施するモデル地区として設定する。

対策内容	実施箇所
モデル地区において、吐口対策、水質改善対策など実施 (p.27~p.30)	3 地区 (善福寺川流域、江東内部河川流域、芝浦地区)

### ② 低コスト・短期間でできる対策の実施

水面制御装置などの費用対効果が大きい吐口対策や、既存施設を活用した貯留池の整備などの低コスト・短期間でできる対策を重点的に実施する。

対策内容	実施箇所
水面制御装置の設置などの吐口対策の実施 (p.36)	300 箇所
既存施設を活用した貯留池の整備 (p.38~p.39)	8 箇所 (30 万m <sup>3</sup> )

### ③ 水質改善対策のメニューの多様化

自然排水区 (※1) において初めて貯留施設を整備するなど、新たな水質改善対策メニューを追加し、きめ細かな対応を図る。

対策内容	実施箇所
部分分流の導入 (p.31)	1 地区
伏越しの構造改善・解消 (p.33)	16 箇所
ポンプ所でのオイルボールの発生抑制 (p.33)	1 箇所
ポンプ所の放流回数削減 (※2) (p.36)	1 箇所
自然排水区における貯留池の整備 (p.38)	2 箇所
放流きよ対策 (※3) の検討 (p.40)	1 箇所

※1 自然排水区 : 雨水をポンプによる揚水ではなく自然流下で河川や海に排水する地区。

※2 放流回数削減 : 隣接するポンプ所の能力を増強し、オイルボールの流出が多いポンプ所への雨水流入量を削減することで、放流回数を削減。

※3 放流きよ対策 : ポンプ所の放流きよ (雨水をポンプ所から河川に流す水路) 内に滞留している放流水の水質悪化を防止する対策。

#### ④ 技術開発の成果を活用

新しく技術開発した高速凝集沈殿処理施設を水再生センターに整備するとともに、試行的に導入したリアルタイムコントロール技術をポンプ所で実施する。

対策内容	実施箇所
高速凝集沈殿処理施設の整備 (p.38)	1 箇所
リアルタイムコントロール (RTC) 技術の実施 (p.38~p.39)	1 箇所

#### ⑤ 効果が認められた対策を引き続き実施

これまでのクイックプランで実施して効果が認められた対策を、引き続き実施する。

対策内容	実施箇所
雨水沈砂池のドライ化 (p.33)	4 箇所
管きよなどの清掃 (p.34)	オイルボールやごみの 付着・堆積箇所
ポンプ排水区への切替 (p.36)	3 箇所
スクリーンの目幅縮小 (p.36)	2 箇所
区などとの連携による貯留・浸透の促進 (p.37)	各区
消毒設備の整備 (p.38)	2 箇所
水再生センター・ポンプ所の放流先の変更 (p.40)	2 箇所

## (2) ソフト対策の内容

### ① 関係機関との連携

対 策 内 容
区などの道路管理者へ路面や道路雨水ますの清掃の充実を要請

### ② お客さまへの協力依頼

対 策 内 容
民間との協働を拡大・充実させることで、より効果的な「油・断・快適！ 下水道」キャンペーンを展開（p.42）
飲食店へのグリース阻集器の設置と適正管理を依頼（p.43）

### ③ 雨の日の水質調査結果の公表と活用

対 策 内 容
雨の日の水質調査結果をホームページなどを活用して分かりやすく公表 （p.44）
水質調査結果を事業効果の指標として今後の対策に活用

## 3 計画期間

平成16年度～平成20年度（5ヵ年計画）

## 4 計画事業費

約290億円

図1-4 新・合流改善クイックプラン 対策実施箇所図

